

朝刊太郎を全面改良

6年ぶり 事実上の新作



日本のどこかで作者が適当に撮影した写真（場所失念）＝写真は本文と全く関係ありません

重ね配置やルビ 横組み完全対応

新聞専用DTPフリーソフト「朝刊太郎」が全面改良された。振り仮名（ルビ）や一部ゴシックなどの文字修飾や、素材の重ね配置を可能に。ユニコード、横組みへの完全対応、見出しの表現能力向上など大幅に機能アップした。ユーザーインターフェイス（UI）も一新。前バージョンβ版への最後の機能追加から6年余り、最後の公式版公開からは実に15年ぶり。ソースコードを一から書き直した事実上の新作ソフトとなっている。名称も変更予定で「朝刊太郎・改」と仮称している。（2～4面に詳報）

マウスによる素材の拡大縮小、矢印キーによる移動など手軽で直感的な基本操作は変わらぬまま、さまざまな機能を追加した。旧バージョンではリード組のみだった横組みが全面的に可能に。箱組はもちろん、すべて横組みの紙面も作れる。見出しの効果も従来の地紋色づけ、影効果以外に、グラデーションも追加。さ

らに「1本見出し」「2本見出し」があり、「3本見出し」など事前にパターンから選べるようになった。箱組作成時も、大きさに合わせたパターンから選択で応じた。

き、設定の手間が省ける。画像はこれまでのビットマップ、JPEG以外に、PNG、GIFも対象に。ベクタ画像のEMFにも対応した。

記事も本文より一回り小さい文字の使用や狭い行間の設定が可能に。長い名簿や記録類などをコンパクトにできる。

し、最大400%まで美しく拡大表示する。表示領域内いっばいに拡張したり、原寸表示に戻すのもボタン一つで可能だ。

動作環境はWindows 7以降となった。開発および動作確認は7上で行っている。XPでは起動はするが、一部のボタン類が動かないので事実上使えなくなっている。VISTAは動作確認の予定はない。

画像の扱いが内部的には大きく変わったため、数千ピクセル以上の大きな画像を使うとメモリをその分消費する。

ユニコード対応

旧・朝刊太郎はSJISのみの対応だったが、ユニコードに対応した。使える漢字が単純に増えるほか、2010年に常用漢字に追加された「罇」「剝」「頻」などの印刷標準字体も使える。さらに独自のタグ方式で異体字セレクタにも対応している（それぞれ対応したフォントが必要）。

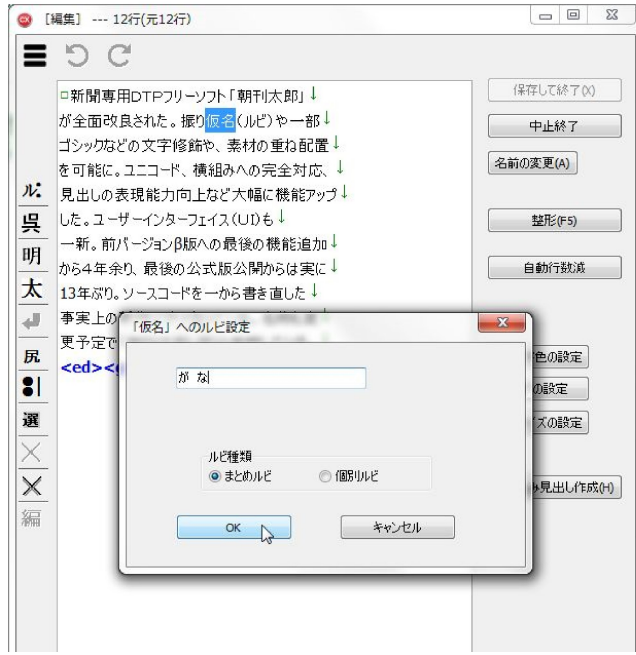
事前にエディタ等で記事を準備する場合、特に文字コードを指定する必要はない。朝刊太郎側で文字コード判別し、必要なら自動でユニコード変換して読み込む。そのため、旧版で作成した記事もそのまま使える。

一部ゴシックや太字化

上の見出しのように、文字の一部をゴシックや太字にするなど多彩な文字修飾が可能になった。もちろん全体がゴシックの場合は一部を明朝とすることもできる。こうした文字効果は記事だけでなく、写真説明や見出しでもほぼ共通。設定のためのツールボタンやショートカットキーも共通化を図っており、習熟しやすくなっている。たとえば「ルボタン」や「Ctrl+R」では、記事エディタでも画像編集画面でも見出し画面でもルビ設定画面が開く。記事と写真説明ではさらに段落・文末の一部を自動的に下に揃える「尻揃え」機能もある。文章の文字数が変わっても常に下揃えとなる。署名や撮影者名のク

写真説明も記事も 見出しも

レジット表記に便利だ。記事には、文字の右側に傍線も引ける。傍線は横組にする自動的の下線となる。また段落頭に全角空白がなくとも強制的に改段を指定できる。一方、見出しでは一部を凝った見出しも作れる。



記事エディタのルビ設定画面。見出しや写真説明でもツールバーやショートカットキーはほぼ同じ

「新聞」を一気に印刷

複数頁からなる「新聞」を一気に印刷する機能が追加された。たとえばあらかじめ4ページの紙面を作成してお

ける、そこから表裏印刷で一部の新聞として印刷ができる（両面印刷対応のプリンタが必要）。8ページ、12ページ...と4の倍数からな

る新聞が対象。表裏2頁の印刷ももちろん可能だ。8ページ立ての一番真ん中である4～5ページなど中面を一枚の横長にした、いわゆる「センターワイド」の紙面も扱える。ただし中に半ページを挟んだ6頁立機能も実装（詳細は2面）。

てなどは未対応。新聞のページ設定はファイルとして保存でき、一つの紙面を複数の新聞パターンに登録可能だ。縮小印刷機能のないプリンタでも自動的に縮小する機能も実装（詳細は2面）。

このPDFは営利非営利問わず自由に使用できます。改変は不可です。詳しくはCC3.0を参照してください。

